

02.ビッグ・ベン



ビッグ・ベン は、ウェストミンスター宮殿に付属する、時計台の鐘の愛称である。ウェストミンスター宮殿は 1834 年に一度消失し再建された。現在の建物はコンペによって選ばれた。ウィナーはチャールズ・バリーでゴシック復興様式が採用された。

私の目にはビッグ・ベンはパリ大聖堂やミラノ大聖堂に見られる純粋なゴシックと同じに見えてしまうが、実はリヴァイヴァル建築であったことを初めて知った。

いろいろと調べてみるとロンドンは特にリヴァイヴァル建築が多いようだ。そういう意味で非常にロンドンは興味深かった。横浜の街並みはとにかく、モダニズムの建築の延長上の建築ばかりだが、そのモダニズムがマイノリティーだった時代に、最盛期を迎えていた様式を目の当たりすることができ非常に興味深かった。

モダニズムの様式が万が一発明されなかったとしたら私たちは今この様式を武器に設計していたかもしれない。ビッグ・ベンを眺めながら辰野金吾や妻木頼黄等が向かった製図板の様子、あるいは辰野がロンドンで過ごした時代の空気を幾ばくか体感できた気になった。

繁田 尊友